



日本洋書協会

JAPAN ASSOCIATION OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

AUGUST 2016
REPORT MAGAZINE

会報誌 | vol. 50 no. 5

Published by JAIP 1-1-13-4F, Kanda-Jimbocho, Chiyoda-ku, Tokyo 101-0051

e-mail:office@jaip.jp

理事会報告 2016年7月15日(水)

出席(敬称略) 相澤、松村、細谷、小松崎、深町、鶴
(総務委員長・事務局)

1. 予算状況

事務局から4-6月の予算状況が報告された。熊本地震の義援金の受領書は日赤から届いた。他の費目に関しては順調に推移しているとして了承された。

2. 2016年度活動予定

小松崎理事から共同物流の取り組みに関する報告があった。

3. 入会承認

三浦書店から出された入会の申込みを承認した。

4. 委員会報告

・総務：7月8日に行なわれた委員会の報告があった。今後の活動予定として、

(1)見学会として「東洋文庫」を推薦する。今年は江戸美術コレクションの展示がある。理事会として承認した。費用等は今後検討する。

(2)セミナーについての候補はあるが検討中。

・メディア・広報：会報8月号の編集に入る。

・事業：7月20日に委員会を行い、詳細を決定する。

・文化・厚生：次回のボウリング大会は8月30日に開催する。新しい委員として3名が加わった。

・関西懇親パーティーは9月16日(金)に大阪第一ホテルで行う。

5. その他

次回の理事会は9月に行う。

JAIPサマーパーティー

2016年度サマーパーティーが去る7月15日(金)に、第一ホテル東京(新橋)にて開催されました。参加者は29社90名と昨年よりやや少なめな出足となったものの、盛会となりました。会は、午後6時に文化厚生担当理事の細谷氏(ビューローホソヤ)の挨拶で開会し、理事長の相澤氏(極東書店)より乾杯の挨拶そして歓談と、なごやかな雰囲気の中スタート。昨年と同様若い世代の参加が多く、会社を越えて活発に意見交換をするようすが多く見られました。そんななか、会に先立ち開かれた理事会で正式に加入が認められた三浦書店さん(若手二名が参加されていました)の姿もありました。終盤、新たに文化厚生委員になった三名の紹介があり(絵本の家の小向氏、アセット・ジャポンの山田氏、チャールズ・イー・タトルの倉上氏)、最後はメ



ディア広報委員会委員長の松野氏(丸善雄松堂)の一本締めにて閉会となりました。

(HY記)

SLA（米国専門図書館協会）大会参加報告

2016年6月12日より3日間、米国フィラデルフィア市でSLA年次大会が開催されました。今回の大会には2,000名以上のメンバーやビジターの参加がありました。

今回5年振りに大会に出席して感じたこと、現在図書館と出版物を供給する出版社に起きつつある現象と動向について簡単に報告します。

米国の図書館協会は規模が大きい順にALA (American Library Association)、SLA (Special Library Association)、次いでMLA (Medical Library Association) があります。ALAには主として公共機関や学校図書館のメンバーが、MLAには医学図書館員が所属しています。一方、SLAは企業や研究機関などの専門図書館員の個人メンバーによって設立・運営されている団体で、日本の専門図書館協議会のような機関メンバーによって構成されている団体とはその目的も性格も異なります。

我々は出版社と図書館（または個人利用者）の間の情報生産と消費の流通サイクルの中にいますが、この三者は共にステークホルダーであって、利害や問題を共有しています。この三者に関連する近年の話題としては

(1) インターネットの進化によって紙のみならず電子媒体にも変化と進化が絶え間なく続いていること、(2) オープンアクセスが普及して来たこと、(3) オープンサイエンスとビッグデータを利用したビジネスが登場してきたことなどがありますが、今回SLAの展示場でも、その影響は如実に表れていました。例えば、最盛期には400コマもあった展示ブースは今回200コマまで減少していますし、ブースのサイズは小振りで大手出版社のスペースや飾り付けも簡素になっています。もともとSLAメンバーの図書館はSTM系が多いとは云え、人文社会系の出版社の出展がほとんどなくなり、逆にビッグデータを基にしたデータ提供やそのデータを解析するオンデマンドサービス、あるいはデーラーメイドの情報サービスを提供する出版社等の出展が増えてきたことが印象に残りました。

近年米国では図書館の閉館や縮小が続き、我が国と違ってライブラリーは図書館員にとっての安住の地で

は無くなりつつあります。この状況下で注目を集めているのがエンベディッド・ライブラリアン (embedded librarian) と呼ばれる、企業や機関の情報が活用される現場で調査やレファレンスを行うスペシャリストとしてのライブラリアンです。日本においても図書館の役割が変化中、エンベディッド・ライブラリアンが紹介され、企業や一部の大学図書館などでは近い働きをするライブラリアンが存在するようですが、日本の図書館全体ではまだ限られた話題のようです。

いずれにせよ出版社、図書館そして流通に関わる者が、それぞれに時代の変化に合わせて生き残りを図っているのが印象に残り、また、我が国にもこのような変化がそう遠くないうちに訪れるのではないかと感じました。

最後に、今回大会に参加して感じたもう一つのこととして、アジアではインドや韓国のライブラリアンの国際活動が活発で、日本は取り残されているという印象を改めて受けました。

山川隆司



我が社・わが街

第5回 湯島さんぽ

(株)南江堂

青柳三樹男

南江堂は本郷の地に1879年(明治12年)に、最初は書店として創立しました。当時我が国の学府の中心であった東京大学の所在地という立地を選択したと考えられます。創業まもなく、お客様方の要望に押され洋書の輸入を始めました。南江堂とお客様との関係はさらに深まり、お客様だった先生方が今度は著者となり、1888年に出版業を開始しました。以来今日まで、医学出版社、医学洋書輸入業者として医学書の発行・普及に努めております。また、日本洋書協会設立時からの会員でもあります。

会社の所在地は文京区本郷ですが、数多く歴史のある湯島とも隣接しており、今回はそちらの情報です。湯島という名称は、江戸時代以前、海から見るこの地があたかも島のように見えたことから付いたとされ、今の不忍池が海とつながっていたらしく「湯島郷」とよばれていたようです。

会社の左隣には、寛永時代に創業し、勝海舟がこよなく愛した最中で有名な老舗和菓子屋「壺屋総本店」があります(店内には勝海舟の書が飾られています)。昔からある伝統的な「壺最中」が絶品です。この壺屋から、春日通りを挟んで少し右手奥に、三代將軍徳川家光の乳母「春日局」(明智光秀の重臣の娘)の菩提寺「麟祥院」がありますが、春日局も寛永時代に活躍した人物で、春日通りという名称も春日局に由来しています。その春日通りを少し下ると、「湯島天満宮(通称:湯島天神)」の大鳥居がそびえ立ちます。正月から4月には、多くの受験生が受験合格祈願とお礼参りに訪れます。大鳥居をくぐって突きあたりを右に折れると、大正元年から続く、鳥ひとすじの「鳥つね」(親子丼が比内地鶏の肉と卵で絶品)が左手に、そしてさらに進むと右手に明治42年創業の老舗天ぷら割烹「天庄」(ごま油で揚げた天井が最高)があり、多くの参拝客が立ち寄っています。春日通りに戻って反対側に渡り、坂を下りきった天神下交差点の少し手前には、日本ラーメン選手権で一位になった「大喜」のとりそばが待っています。その向かいが、居酒屋「シンスケ」。厳格な日本家屋のようなたたずまいの店は、ミシュランで星を獲得した名店。料理はどれも上品で、家

庭的です。これらのお店は、芸能人の散歩道として、よくテレビ番組で紹介されています。

さて、天神下交差点を渡って秋葉原方面に進み、路地に入ると私の行きつけのお店「手作り料理の店大」があります。ここは、全国の珍しい純米大吟醸酒がリーズナブルな価格で味わえます。それに加えて、季節の素材を生かした「幸ちゃん」手作りの料理。これをいただくと仕事の疲れも吹っ飛びます!メニューはあるようですが、座ればいつも自慢の手作り料理が次々と出てきて、これがお酒とよく合います。この庶民的な料理屋は、海外からのお客様もみな気に入ってくれます。このお店のファンになる方も多く、ここでの会議後のひと時を楽しみに、弊社には夕方の訪問客が増えています。湯島界限にお越しの際は、ぜひ声をかけてください。



麟祥院



手作り料理の店大



START AT THE SOURCE.

No other resource gives you more insights from more perspectives. When you explore Gale Primary Sources, you'll discover original, first-hand content — meticulously cross-referenced to bring the facts into focus, and the information to life in remarkable new ways.

Gale Primary Sources

日本洋書協会会報 vol.50 No.5(通算542号) 発行日2016年8月1日 編集者 松野 夏生

発行所 日本洋書協会 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-13 (株)MHM内 TEL 03-3518-9631 FAX 03-3518-9523
URL:<http://www.jaip.jp> E-mail:office@jaip.jp